

京都産業大学 現代社会学部  
プロジェクト演習  
木原ゼミ  
アニュアルレポート

2023



このレポートは「四国の右下」若者創生協議会が実施する「県南地域づくりキャンパス事業」の助成を受けて制作しています。

「四国の右下」若者創生協議会とは、徳島県、阿南市、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町で構成し、交流人口の拡大・人材環流及び地域活性化に取り組む団体です。

# はじめに

京都産業大学現代社会学部でプロジェクト演習に取り組む木原ゼミは、今年度で6年目を迎えました。

昨年卒業した3期生が卒業制作として過去5年間のゼミ活動を詳細にまとめた『牟岐とわたしのブログ 京都産業大学木原ゼミと徳島県牟岐町の歩み』と題した冊子を発行し、私たちに残してくれました。人との出会いやつながりを大切にする木原ゼミですが、この冊子を手に取り、改めて新旧ゼミ生がつながっていくこともまた大切なことなのだと感じました。そこで、今後は毎年、私たちの活動をアニュアルレポートとして記録していこうということになり、今回のアニュアルレポート制作につながりました。

このレポートの制作を通して、一年の活動を振り返り、良かった点や反省点を明確化することができたと思います。

また、活動を記録することで、現2回生が次年度の活動計画を立てたり、現1回生がゼミ選びをする際の参考にするなど、このレポートが次の世代へのバトンになってほしいと考えています。

うまくいったことばかりではありませんが、懸命に活動に取り組んだ1年間の記録をご覧いただければ幸いです。

5期生 大見悠真

2023年2月

# 目次

## ゼミ行事

現代社会学部学部奨励金選考 2

オープンゼミ 3

学会発表奨励賞受賞 4

秋学期活動方針策定会 6

6期生歓迎会 7

神山祭展示制作 8

神山祭 10

プロジェクト演習合同報告 13



牟岐  
プロジェクト

牟岐春合宿 15

牟岐夏合宿 17

ライスバーガー考案、試作 19

牟岐秋合宿・産業祭出店 21

未来へ繋ぐ  
～牟岐と木原ゼミの軌跡～ 23

Lavita  
プロジェクト

Lavitaプロジェクト 25

春～冬号 26

振り返り

振り返り 27

おわりに

おわりに 37

# ゼミ行事

木原ゼミでは、「牟岐プロジェクト」「LaVitaプロジェクト」以外にも日々さまざまな活動に取り組んでいます。新ゼミ生の勧誘や歓迎会、京産の文化祭である神山祭にも毎年参加しています。

ここでは上記2つのプロジェクト以外のゼミ活動を紹介します。

# 現代社会学部学部奨励金選考



2023/03/13

現代社会学部には「他者と協働して社会の課題解決を担う次世代型リーダーの育成」の趣旨に即した成果を収めた人や団体に対して奨励金が交付される制度があります。

木原ゼミも2022年度の活動をプレゼンテーションしました。2022年の秋から活動を開始した5期生は3月までに合宿や神山祭、イベントの開催など様々な活動を経験しましたが、そもそもの木原ゼミの成り立ちや牟岐町との出会いについては知らないままでした。ですがこの奨励金の発表会を通して木原ゼミの根本的な活動内容について深く知ることができました。

結果として奨励金発表会は成功に終わり、現代社会学部各先生方からも高い評価をいただきました。私たち5期生主体の活動としてはこれが実質初の活動であり、良いスタートを切れたと考えています。

# オープンゼミ



2023/05/25~06/08

新6期生募集のためにオープンゼミを行いました。3週間に渡って行き、毎回2回生が来てくれて活気ある雰囲気でした!木原先生の研究室にもたくさんの2回生が訪れており私たちとは違う視点から見た「木原ゼミ」が知れて勉強になりました。

5期生からしたら木原ゼミに入って半年が経つ時期。新たなゼミ生を迎えるため、今までの活動を言語化し伝える機会となりました。最初こそ活動の多さから何から話せばよいか…と、言葉に詰まる場面はありましたが後半になればなるほど自分たちの中で整理もつきスムーズに紹介できるようになりました。

# 学会発表・学会奨励賞受賞



2023/09/02~03  
兵庫県豊岡市で行われた地域活性学会第15回大会に参加し、木原ゼミ4期生のメンバーが、「コロナ禍における大学生の地域活動の実践がキャリアに与えた影響」と題して3年間にわたるゼミ活動の成果を発表し、学会奨励賞を頂きました。



発表後には「皆さんのキャリアに積極的な影響があったことはわかりますが、フィールド地域の活性化にはどのように繋がったのでしょうか」などご質問も頂き、うまく答えられず準備不足を痛感する結果となりましたが、このような場に立てた事で自分達の活動を客観的に見直す貴重な機会となりました。





# 秋学期活動方針政策会議



2023/09/16

秋学期活動方針策定会議を行いました。  
1年間のテーマを「食」と設定し、春合宿での学び  
(100年フード、食問題)をもとに神山祭や12月イ  
ベントを行うという内容でした。

また、6期生との初めての会議となりました。5期  
生が今まで学んできたことを6期生に伝えていくた  
めの第一歩となった会議でもありました。  
そして会議が終わった後は、夏休みの思い出や  
5.6期生とのコミュニケーションを図るための時間  
となりました。みんな久々に会って楽しく談笑しあっ  
ていました。

# 6期生歓迎会BBQ



秋学期活動報告策定会の後に6期生歓迎BBQを行いました。そこへ4期生と牟岐町の大西さんと石井さんにも参加して頂きました。2回生だけでなく牟岐町の方や、4期生の方々ともコミュニケーションを取れる機会となりました。

また、交流を増やすために企画交流部が考えたクイズ大会もありました。先輩たちの行っていたスポーツや趣味がクイズとなっており、6期生に覚えてもらえるような楽しい企画でした。優勝したチームにはお菓子の景品も用意され、充実した時間になりました。



# 神山祭展示作成



←POP制作

缶バッジ準備→



↑  
ジオラマ制作→



2023/10/01～11/03

神山祭前の授業時間を利用して、神山祭に向けた準備をしました。

神山祭では日々の活動の展示、西陣織を使用した缶バッジ制作体験、野菜スタンプ、牟岐町の商品の販売を行いました。

日一の活動の展示に際して、模造紙とジオラマを作成しました。ジオラマは手作りで牟岐町を再現しました。

西陣織缶バッジ制作体験は、「sampai accessory store」の宮武様にご協力いただき、実施することができました。

ゼミ生みんなでPOP作りや缶バッジの素材準備、ジオラマ制作などに取り組みました。

神山祭の準備を通して、6期生同士の仲や5.6期生同士の仲が深まりました。

# 神山祭



← 牟岐町の特産品を販売

牟岐町のゆずなどを  
使った野菜スタンプ  
コーナー →



西陣織のはぎれを  
← 使った缶バッジづく  
りコーナー



← 普段のゼミ活動  
紹介コーナー

牟岐町の  
ジオラマを制作 →



← 全体の様子

2023/11/04~11/06

第38回神山祭の部展に出展しました。写真や模造紙を用いて、普段のゼミ活動を紹介するコーナーと牟岐町の特産品を販売したり、缶バッジづくりや野菜スタンプが体験できるコーナーを設置しました。

普段のゼミ活動を紹介するコーナーでは、私たちがこれまで行ってきた牟岐町での取り組みとラ・ヴィータプロジェクトについて紹介し、本学の卒業生の方たちをはじめ、多くの方に見ていただきました。

西陣織のはぎれを使った缶バッジづくりや、牟岐のゆずなどを使った野菜スタンプは子供たちだけでなく大人の方にも大人気でした。また、牟岐町の特産品を販売する際には、来ていただいた方に牟岐町の紹介やゆずの説明など会話を交わしながら、直接牟岐町の魅力を伝えることができました。

神山祭の期間中には、牟岐町からJAかいふの皆さんや牟岐キャリアサポートの大西さんにもお越しいただきました。

この神山祭を通して、多くの方々に木原ゼミの活動や牟岐町について知っていただくことができました。

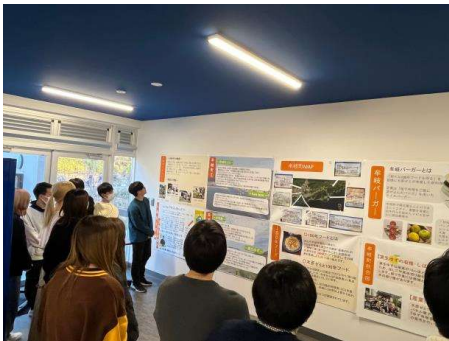
# プロジェクト演習 合同報告会

2023/12/28

プロジェクト演習の活動報告を行いました。ポスターや解説を通して牟岐町と木原ゼミの関わりや2023年度の秋合宿やライスバーガー作りについてを説明するというものでした。

この報告会には他のプロジェクト演習も参加しておい様々なプロジェクト演習の発表を見ることが出来ました。6期生にとってはこれからどのような活動をするか考える時期であったためほかの発表見ることによって活動を参考にできる部分があり良い機会となりました。

他のプロジェクト演習の方々以外に現代社会学部の一回生が参加していました。木原ゼミの活動、方針について説明しました。そのため木原ゼミ7期生のリクルートにもつながるものとなりました。



# ■ 牟岐プロジェクト

木原ゼミでは、2018年から徳島県南部の**牟岐(むぎ)町**をフィールドとして、**関係人口創出**に関わる活動に取り組んできました。

これまで、特産品の**ゆず**(種から育てた実生ゆずといいます)関連商品を京都のマルシェで販売したり、カフェとコラボして、新しいスイーツの企画などを行ってきました。

年に2回春と秋に牟岐町を訪問し、地元の方とのワークショップやゆずの収穫、加工などを行い、交流を深めます。



# 牟岐春合宿



← 島そうめん

ジビエバーガー→



← 押し寿司



2023/06/03~04

5期生が牟岐町で春合宿を行いました。関係人口創出というゼミの目標からさらに次のステップへと進むため、牟岐町の「100年フード」に着目しました。関係人口とどう関わり、どのような手段・思いを元に次世代へと繋げていくのか、という課題に向き合う第一歩となりました。

1日目は、まず県農林担当者の方から実生ゆずや100年フードについての説明をしていただきました。次に、牟岐町の押し寿司作りをさせていただきました。JA海部女性部の方々に、牟岐町の文化や歴史的背景の解説を交えながら、押し寿司の作り方を教えていただき実践しました。夜は花火をしたり、星や蛍を見に行ったりと、牟岐町の自然を肌で感じることができました。

2日目は、ジビエバーガーや島そうめんを作りました。同時に、魚や山に住む生き物と、人との関わり方がどのように変化しているのかなど、変わりゆく牟岐町の伝統食について現状を踏まえて教えていただきました。午後からは牟岐町の方のご厚意で出羽島に連れて行っていただきました。

最後にリフレクションを行い、12月に開催されるイベントに対する思いや案を出し合いました。改めて、各々が目指す地域活性化とは何か、考え直すことができました。

# 牟岐夏合宿



←イベントに向けての会議



↑

← ライスバーガーの  
開発



2023/09/06～08

12月のイベントに向けて牟岐で合宿を行いました。木原ゼミが今までどのように牟岐町と関わってきたか、これから大切にすべきこと、春合宿で牟岐町の方々から得た学びなどを軸として、牟岐町の方とディスカッションを行いました。その結果、牟岐町の新たな伝統食として、牟岐のライスバーガーを作る活動を行うことに決定しました。



← フィールドワークで  
訪れた展望台

フィールドワークで  
訪れた小学校での  
灯籠イベント →



そこからは、ライスバーガーの開発に向けて  
試行錯誤を行いました。2日目には、牟岐の  
スーパーに勤務されているの方とお話しさせて  
いただき、牟岐の方の食生活や好みの味をヒア  
リングすることができました。3日目にはJAかい  
ふ牟岐女性部さん協力の下、牟岐の特産品で  
あるゆず味噌を使ったライスバーガーの開発を  
行いました。

この合宿では、0から1を作るという非常に貴  
重な経験をしたと同時に、フィールドワークに  
よって牟岐のことを深く知ることができたことも  
大きな学びとなりました。

# ライスバーガー試作



↑  
試作の様子 →



← ゆず味噌香る  
牟岐ライスバーガー

2023/09~11

今年度の活動の1つである牟岐町の新たな100年フードの考案に向けて、9月~11月にライスバーガーの試作を行いました。JAかいふ牟岐と木原ゼミのコラボ米「牟岐むすび」に牟岐町の「もち麦みそ」を混ぜ込み焼いたものを、私達は牟岐ライスバーガーと定義しました。できるだけ手間とコストを抑えた中で、満足感があり何度も食べたくなるようなライスバーガーを目指しました。ご飯の厚さやもち麦みその量、中の具材などを変えたり、ゼミ生以外の方にも食べていただきアドバイスを頂いたりもしました。

このように試作を重ねた結果、中にレンコ鯛、牟岐町の「ポンジュレゆう」入り大根おろし、大葉を挟んだ『ゆず味噌香る牟岐ライスバーガタ』を考案しました。

# 牟岐秋合宿・産業祭出店



2023/11/18~19

新体制となり初めての合宿を行いました。1日目は2回生と3回生で分かれ、6期生は牟岐町の方に教えていただきながら、実生ゆずの収穫とゆずしぼり体験をさせていただきました。野生のゆずは樹高が10メートル近くにもなるので、高枝切りばさみを使って収穫します。実を落とさずにはさみを扱うのに苦戦しましたが、大きく完熟したゆずをかごいっぱい収穫することができました。

そして、しぼる作業では機械によるものと、昔ながらの木のしぼり機を使って行いました。ゆずの香りが作業場に広がり、幸せな空間でした。5期生は2日目に行われる産業祭に向けて、ライスバーガーの下準備や展示物の準備を行いました。





2日目は新たな100年フードとして考案した「ゆず味噌香る牟岐ライスバーガー」を牟岐町の産業祭で販売しました。どれくらいの個数だったら完売できるだろうか、いくらだったら買っていただけるだろうかと事前に準備を重ねた結果、1時間30程で70食分のライスバーガーを完売させることが出来ました。買ってくださったお客さんは皆口を揃えて、「美味しかった」と言ってくださり、達成感満載のイベントとなりました。

# 「未来へ繋ぐ」 ～牟岐と木原ゼミの軌跡～



←「牟岐の押し寿司」  
づくり体験!

ゲストの方と  
一緒にトークショー→



←ゼミ生による  
今までの活動発表



2023/12/16

京都産業大学の学外施設、「町家学びテラス・西陣」にて、ゼミ生3回生の集大成となるイベント「未来へ繋ぐ～牟岐と木原ゼミの軌跡～」を開催しました！

私たちが取り組んできた「関係人口創出」について今一度考え直してみよう、今年1年の活動がどうだったか牟岐町の方々と交えて振り返ってみよう。という目的でイベントを開催しました。

イベントでは、「牟岐の押し寿司」づくりを、JAかいふ女性部の皆さんに教わりながら一緒に体験したり、今後100年続いていくような牟岐の伝統食として、牟岐の食材を使ってゼミ生が考案した「ゆず味噌香る牟岐ライスバーガー」を発表し、試食した皆さんから好評をいただきました。

また、今回のイベントのメインである、トークショーとトークセッションでは、これからの関係人口創出のために、牟岐町のことを思い出すことを大切にしたいと感じる機会になりました。そして、1人1人が息長く関わり続ける方法を見つけていきたいと思えるような時間になりました。

# ■ Lavitaプロジェクト

「キャリアは人との出会いによって切り開かれるもの。」

木原ゼミでは、ゼミ生の将来の生き方や働き方の視野を広げるため、人との出会いをとても大切にしています。LaVitaプロジェクトでは、普段の学生生活で出会わないような年齢や職業、暮らす地域などが異なる方の価値観や生き方を取材し、記事にします。

イタリア語で「生活」「人生」を意味する“La Vita”(ラ・ヴィータ)。

その名の通り、ゼミ活動の中で出会う人々の生活史、働き方、生き方をインタビューし、記事を執筆するプロジェクトです。

インタビュイーはゼミ生自身が「この人の話を聞きたい」という人を決めて、取材に行きます。作成した記事は、「働く」について考えるフリーマガジン『おっちゃんとおばちゃん』(季刊誌)に毎号掲載されます。



『おっちゃんとおばちゃん』2023年春号  
宮澤修平さん (Webデザイナー・喫茶店経営)  
取材: 中間優花 西川志保 松田萌



『おっちゃんとおばちゃん』2023年夏号  
横森匡弘さん (大学教員)  
取材: 宮崎智輝 王本真之介 小藪千奈



『おっちゃんとおばちゃん』2023年秋号  
中山拓真さん (行政職員)  
取材: 津田直紀 王本真之介 大西康稀



『おっちゃんとおばちゃん』2023年冬号  
松尾智晶さん (大学教員)  
取材: 王本真之介 大見悠真 宮田英作

各記事はQRコードからご覧いただけます。



# 振り返り

## 6期生



秋合宿では、初めて牟岐町へ行き実生ゆずの収穫、ゆず絞りをを行い産業祭へ参加した。ゆず収穫はゼミに入る前から楽しみにしており、とても楽しく活動することができた。来年は自分たちがメインの学年になるため、さまざまなことに挑戦していきたい。

山下 陽勇馬

新しい環境ではじめて知ることが多く、とても有意義に過ごせた。自分たちの力で活動を進めるにあたり、試行錯誤することが多くあったが、話し合いで積極的に発言したり、アイデアを出すなどといった形で貢献できたと感じている。新たな出会いを大切にしていきたいということを心にとめて、この先も沢山挑戦をしていきたい。

品川 侑里

神山祭の部展準備では牟岐町のことや木原ゼミの歴史を学びつつ、説明資料やブース作りを行うことができた。また12月の5期生方の集大成であるイベントにて、伝統食作りの体験をさせていただき非常に美味しく楽しかったことが印象深い。これからは同期と共に楽しくやりがいのあるゼミ活動を行っていきたい。

采野 愛梨

春合宿やイベントでは今年のテーマである「食」を通じて牟岐町についてたくさん知ることができた。神山祭の部展準備では牟岐町についての知識を深めながら資料作成を行い、当日は多くの人と交流を行い楽しむことができた。来年度は協力して新しいことにたくさん挑戦したい。

本多 未奈

牟岐町の特産物を使ったライスバーガーを、試作から販売まで自分達で考えて、産業祭で現地の方々に食べてもらうことができて本当に良い経験になった。今後も牟岐町の魅力を、食だけでなく様々な方向から広めていけるように励みたい。

岡 千絢

合宿や神山祭の準備などにおける話し合いの中で、牟岐町との関わりについて深く考えることで、徐々に知識を得ることができた。今学期はライスバーガー作りや合宿でのゆず収穫など、牟岐町の良さを五感で触れることができて良い経験になった。牟岐の魅力を見つけ、伝えられるようにこれからも様々なことに取り組んでいきたい。

神谷 美穂

産業祭に向けたライスバーガーの制作では、1から新しいものを作り始める難しさを実感した。また産業祭で使用するためのポップ作りも行った。自身でデザインするのは初めてだったが、周りからのアイデアを取り入れ作成することが出来た。今後は新たにマルシェ活動が始まるため、同期のみんなで大きな挑戦を乗り越えていきたい。

森野 葵

秋学期の合宿では産業祭で自分たちが1から作ったライスバーガーの販売やゆず収穫、ゆず絞りなど初めての体験し、牟岐町での学びを深めることができた。また、神山祭では缶バッチ作り体験を行い楽しかった。今後の活動でマルシェを行うので、これからできる人との出会いを楽しみ且つ大切にしていきたいと思う。

堀池 優那

秋学期から木原ゼミに参加し、その中でもメインであった秋合宿にて主にライスバーガー作成班として活動を行った。その中で改めて食の楽しさや、販売を通じた、人との関わり、温かさを改めて実感することが出来た。今年はマルシェなどを通じて、より人との関わりをより広く、深くして行けたらなど考えている。

宮田 英作

木原ゼミに入ってから4か月とは思えないくらい濃く、多くの学びを得た時間だった。一番思い出に残っているのは牟岐町合宿でライスバーガーを販売したことだ。0からの挑戦は大変なことの連続だったが、仲間と最後までやり遂げたことは自分の自信になった。

北岡 鈴奈

神山祭や秋合宿を通じて今まで知ることの無かった牟岐町や関係人口についてを知ることができた。このような知識だけでは無く牟岐町の方々との交流といった学校の授業では経験できないことを経験できた。このような経験を活かしこれからのゼミをより良いものを感じるように頑張っていきたい。

角 悠太



# 5期生



今年度はとても学びの多い活動となった。去年は先輩に頼っていた部分が多く、いざ私たちの力で物事を進めるとなると様々な問題が発生してしまった。それによってたくさんの方に迷惑をかけてしまった。しかし、これらのことは初めて行ったことであり、失敗するのも致し方無いことである。失敗をマイナスに捉えるのではなく、いい経験ができたとプラスに捉え、今後の活動も頑張っていきたいと思う。

大見 悠真

今年度は自分たちが主体となり、慣れない環境の中不安なことも多くあったが、無事に1年間の活動を終えることができて良かった。今年行ったイベントを振り返り、情報を共有することの大切さや計画を立てることの重要性を改めて実感することができたため、このような得た学びを今後活かしていけたらと思う。

原 優香

3年生となり、後輩もできたことで自分から行動することを自身の目標としていた。また後期からは副ゼミ長としてチーム全体をまとめることも必要となった。春夏秋と合宿で牟岐町にお世話になり、街の風景や特産物だけでなく、人や雰囲気が好きになった。12月イベントを最終目標とし、神山祭や秋合宿での産業祭など積極的に行動できた。また、ゼミ生を始めとした様々な人と出会い、心身共にゆとりができて物事を多面的に捉えられるようになったと感じる。

王本 眞之介

今年度を振り返って、1人1人が意見を言い合い、自分たちの力で様々なことに取り組めたと感じた。それによって、うまくいかないことも多くあったが、その時にみんなで協力したからこそ、乗り越えることができ、ゼミ生がまとまれたと感じた。

中西 桃香

今年度のゼミは自分自身が成長するきっかけになった。特に神山祭は担当者だったこともあり、力を入れて取り組んだ。沢山の方々にご協力いただき、無事に終えることができて本当に良かった。至らない点も沢山あり、迷惑をかけてしまった場面があったが、この反省点を踏まえて今後の活動に取り組んでいきたい。

西川 志保

今年度一年間、ゼミの活動を通して個人として成長ができたと思う。特に会計という役職や、イベントでの司会といった責任ある役割を務めたことで、責任感を持ち自分で考え行動する力が身についた。そのことが自分の自信につながった。

津田 直紀

一年間を通して自分ができる事、出来ないことがはっきりした年になった。出来ないことは、色々助けてもらい、イベントを成功させることが出来た。この1年で大きく成長したように感じた。次の1年も互いに高め合いながら成長していきたい。

大西 康稀



意見を言語化し仲間と共有することの重要さや、0の状態から1を作り上げることの難しさを痛感した一年間だった。今まで繋げてくれた先輩方の思い、牟岐町の方々の支え、そして私たちの「繋げたい」という意思、全てがあるからこそ、私たちは牟岐町と関わり続けられているのだと思った。

天島 愛波

自分たちが主体となりやってきたこの1年間、私にとってとても充実した年であった。神山祭担当として、みんなが楽しかったと言ってもらえる学祭にすることが出来たし、12月のイベントでは計画を立てて物事を進める大変さや難しさもあったが、そこから沢山のことを学ぶことができた活動であった。これらの活動で得たことを今後活かしていきたいと思う。

松田 萌

今年1年の活動はすごく楽しかった。フィールドワークでたくさん学ぶことがあり実際に体験しないとわからないことばかりですごくいい経験になったと思った。来年度も楽しくいろいろ学べたらいいなと思う。

矢野 遥香



## 4 期生



フィールドワークが行えること、地域活性化にほんの少し興味があったことを理由にこのゼミに入ったが、こんなに3年間が充実したものになると思っていなかった。活動を通して今まで知らなかった牟岐町という町について知ることができたのに加え、様々な人々と有意義にかかわることができた。それはこのゼミの、同期だけでなく先輩や後輩と協働してプロジェクトを行う環境が大きいと思う。学外の活動だけでなく普段のゼミ活動においても自身のキャリアを見つめることが多く、自分の将来に少なからず関係するであろう濃い3年間だった。

宮崎 智輝

木原ゼミの活動は、私の人生に大きな影響をもたらした。正直に、初めの方はこのゼミがどういう活動をするのか、誰とどのように繋がりを持っていくかが全くわからなかった。しかし、地域活性化という目的を持ち、さまざまな人と接するなかで、交流を交えていくと、繋がりは広がっていくと言う本質に気がついた。交流を多くすることで見えてくるものはとても変わってくるということを学び、その教訓を今後も活かそうと思えた。

今村 公紀

高校時代に地域について勉強する機会があったことと、フィールドワークに取り組んでみたいので木原ゼミに入った。ゼミ活動を通じて牟岐町や西陣などの多くの人と関わることで、こんな考え方もあったんだと自分の価値観を広げることができた。また、コラボ活動の一環でさまざまな場所にゆずの魅力を売りに行ったり、おぎにし広場では西陣を探索したり、西陣に詳しい人に話を聞いたりこのゼミ活動を通じて行動力を身につけることができた。この経験を将来に活かそうと思う。

今吉 祐貴

木原ゼミで過ごした3年間を振り返ると、とにかくずっと牟岐のことを考えていたように感じる。そのくらい牟岐が好きで、牟岐のために自分ができることを精いっぱいしようと常に思っていた。活動を通して学んだことは沢山あるけれど、それよりも単純に、名前も知らなかった町に愛着を持つって面白い！生まれも育ちもしていないあの町に自分の居場所があるのだと思うと、なんだか不思議でワクワクする。第二の故郷のような町を見つけれられたことが活動一番の収穫だ。

小藪 千奈

コロナ禍で大学生活に苦戦する中、人間関係と地域交流を重視した活動内容に惹かれて木原ゼミに入った。大学で初めて、同じ目標を持って活動できる先輩と同級生ができて安心したことを今でも覚えている。ゼミを通して多くの人たちと繋がり、様々な地域活動をゼミ生で協力しながら様々な問題を乗り越えることができた。地域を想う多くの人たちと3年間活動できたことが大学生活一番の思い出だ。

陣内 琢巳

3年間のゼミ活動は、私の人生において忘れられないものになったと思う。

最初は全く興味のなかった牟岐町での活動も、出会う人々の温かさや牟岐町の豊かさに触れることで意欲がどんどん上がっていき、気づいたときには「牟岐町のために何ができるか」を考えながら過ごす大学生活になっていた。大変なことも多くあったが、その分うれしいことや楽しかったことも沢山あり、充実した大学生活を送れた。

木原ゼミで出会った人や経験は、今後の人生で必ず訪れる困難を乗り越える糧になると思う。

若松 咲希

大学では、周りより早く動いて能動的に自分の力になることをしたいと考え、このゼミを選んだ。フィールドワークができると楽しみにしていたが、コロナウイルスの影響で、昨年までやっていたことができなくなり、新しいことを私たちの代からスタートしなければいけなかった。その中で、徳島県牟岐町という地域と関わるようになった。地域を盛り上げるためにどうすればいいか考え、行動することで地域という場所が自分事のように考えられるようになったと思う。私はほかの人より長く牟岐町と関わる中で、故郷に近い感情が湧きつつあることが、とても嬉しく、これからも関わりたいと考えられるようになったと思う。

原口 遼太郎

「地域活性化に関わってみたい」それだけの思いでこのゼミに入った。木原ゼミだったからこそ出逢えた人、自分と向き合う時間ができた。3年前、想像もしていなかったような経験ばかりで、偶然だらけの日々だった。何か特別で大きなことを成し遂げるということより、様々な人と協働して物事に取り組んでいくことを大切に、これからも人生を歩んでいけたらと思う。

平岩 侑馬

3年間のゼミ活動は、私の今後の生き方に大きな影響を与えたと思う。たとえば、自分の行動が「他の誰かのためになる」と信じられるようになった。人との何気ない出会いが、徐々に周囲を巻き込んだ活動に発展していく光景を何度も目の当たりにした。不思議で面白く思うと同時に、自分のフットワークを軽くもしてくれた。些細な行動であっても、それを誰かは見てくれていて、次の活動での役割につながることもあった。延長線上で活動が生まれていくゼミだからこそ、何物にも代えがたい貴重な経験だったと思う。

吉田 紅音



# おわりに ～編集後記～

今回のアニュアルレポート作成にあたって1年間の写真やブログを見返し、とても懐かしく感じました。うまくいかない時期が長いように感じてたけど、振り返ってみれば楽しい思い出や学びとなった機会がたくさんありました。日々慌ただしく過ごしているといつい忘れてしまいがちですが、自分たちの活動の足跡がこのような冊子で残るといいものだなと感じました。作成に協力してくれたゼミ生、木原先生ありがとうございました。

矢野

ゼミ活動を行うにあたって、今年は乗り越えられるか不安な壁にぶつかり、悩む事も多かったように思えます。その度に意見を出し合いやり遂げることができた「今まで」を、アニュアルレポート作成を通して見つめなおすことができてよかったです。今までの繋がりを絶やさず、大切に、次に繋げていきたいと改めて感じました。ありがとうございました。

天畠

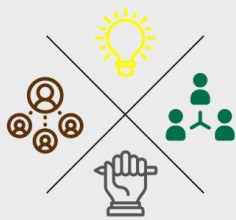
今回アニュアルレポート作成にあたり、1年間のゼミ活動を振り返ったことで、どのようなことに取り組み、どのようなことを学んだのか改めて考えることができました。自分たちの活動がこのような冊子となってこれから沢山の方に知って頂けると思うと、この冊子を作成してよかったと思います。今回作成したアニュアルレポートが今後何かのきっかけになると嬉しいです。ありがとうございました。

原





京都産業大学現代社会学部  
プロジェクト演習 木原ゼミ  
2024年2月



# COPULA

KSU KIHARA ZEMINAR